

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 4 月 28 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/28 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	28.5	107.4 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 4.4 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.8 m <sup>3</sup> /h	46.8	18.92 kPa g	A系:0.43 vol% B系:0.43 vol%
		給水系：約 2.9 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.0 m <sup>3</sup> /h	57.7	0.28 kPa g	A系:0.19 vol% B系:0.14 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			

\*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機】・4/28 10:15 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.6m<sup>3</sup>/hから約 2.0m<sup>3</sup>/hに調整。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (4/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.0
2号機	循環冷却システム	運転中	21.3
3号機	循環冷却システム	運転中	20.0
4号機	循環冷却システム	運転中	28

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 → 移送先	移送状況
1号機	1号機タービン建屋 → 2号機タービン建屋	4/27 14:49 ~ 移送実施中
2号機	2号機タービン建屋 → 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	4/14 15:27 ~ 移送実施中

・4/28 7:24~13:17 集中廃棄物処理施設 サイトバンカ建屋からプロセス主建屋へたまり水を移送実施。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/28 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- 4/27 9:17 協力企業作業員が淡水化装置(逆浸透膜式)2において水の漏えいを確認(漏えい確認時の水たまりの水の量は約18リットルと推定)。9:30 同装置を停止し、漏えい水の床面への滴下を防止するため、漏えい箇所である同装置入口側配管継ぎ手部に対しビニール袋による養生を実施。その後、漏えい箇所周辺の弁を閉めることにより、10:19 漏えいの停止を確認。最終的な漏えい水の量は約36リットルで、同装置の堰内にとどまっており、建屋外への流出はない。また、水たまりの表面線量率はβ線が約7mSv/h、γ線が約1mSv/h であり、漏えい水の核種分析結果は、ヨウ素 131:検出限界値未満、セシウム 134: $1.5 \times 10^0$ Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム 137: $2.1 \times 10^0$ Bq/cm<sup>3</sup>、全ガンマ: $4.9 \times 10^1$ Bq/cm<sup>3</sup>、全ベータ: $5.4 \times 10^4$ Bq/cm<sup>3</sup>。なお、淡水化处理した水は十分にあること、他の淡水化装置は継続して運転していることから、原子炉注水への影響はない。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/18～ 2号機循環水ポンプ吐出弁ピットおよび2号機電源ケーブルトレンチの閉塞工事を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上